

ドローンでグラスショット液剤を散布

農家の労力軽減を図り、高低差のある畦畔雑草に試行

2020年4月30日(木)

大津市大物の(農)アグリパワーで、畦畔の除草を行うためドローンでグラスショット液剤を散布しました。

アグリパワーの農地の畦畔には10m超えの高低差があり、草刈り作業も重労働で危険が伴うものであるため、昨年度に大津市南部で試験散布を行い効果が得られたグラスショット液剤の散布を当該地でも試行することとなりました。



高低差のある畦畔の除草を行うため、ドローンでグラスショット液剤を散布しました。

当JAでは、農家の労力軽減のためドローンによる試験散布を重ねており、飛行にも工夫をしながら行いました。ドローンによる畦畔雑草抑制剤の散布は全国でもまだ例がないため、薬剤メーカーと協力しながら実施しています。畦畔の草刈りは年4～5回の重労働ですが、抑制剤を散布することで雑草の生長を抑えて年2回程度に労力を軽減することが狙いです。

ドローンのオペレータを務める当JA北営農経済センターの田中章吾センター長は、「大津市は中山間地域の水稲栽培も多く、高低差の大きい畦畔もあり、ドローンで作業を請け負うことで少しでも重労働を軽減することができればと考えています。また、耕作放棄地の増加の歯止めにもつながればと思っています」としています。

なお、大津市南部の(農)新免営農組合でも抑制剤散布の実施を予定しています。